

第14回新潟活性化サロン

- ◇ 開催日：令和8年5月26日
- ◇ 講演者：プログレス・テクノロジーズ株式会社 取締役 澤井 大輔 氏
- ◇ 講演内容：「ローコード業務DXによるにいがた2kmの活性化
～技術革新に乗り遅れないにいがた2km～」

1. 「にいがた2km」との関わり

- ・日本の製造業の競争力は近年弱まっているが、その原因はITの活用が他国に比べ遅れていることにある。当社はメーカーに対しAIやデジタルツインの技術を用いたバーチャルでのモノづくり技術（バーチャル上で様々なシミュレーションを行ってから実物を製造することで、製造コストや期間を抑える技術）を提供し、日本の製造業の競争力の回復を目指している。
- ・新潟市は魅力の非常に多い都市ではあるが、それが中々集客や活性化に繋がっていないという現状がある。その中で当社はにいがた2kmの取組や考え方に共感し、DXによってにいがた2kmの活性化に貢献していきたいと考えている。
- ・当社はバーチャルでのモノづくり技術をにいがた2kmに応用し、バーチャル上でにいがた2kmを再現し、AIによるブロードリスニングの結果も取り入れて様々なシミュレーションを行う技術を開発・提供している。

2. 「にいがた2km」の企業のDX化

- ・また当社はにいがた2kmに所在する企業のDX支援を行っている。新潟市の人口が減少する中、経済を活性化させるためにはDXによる業務効率化が不可欠であり、新潟市をデジタルの進んだ都市にしていきたいと考えている。
- ・一般的なITコンサルタント企業が行っているような、業務全体の見える化を行い長期間のプロジェクトで行うようなDXでは、コストや期間の割に現場がついてこれずDXが定着しないケースが多い。我々が提供しているローコードによるDXは、中小企業でも無理なく投資することができ、小規模からスタートして現場が無理なく進められる形で導入することができる。ローコードを用いることで、専門的な技術がなくともドラッグ&ドロップのみで直感的かつ短期間でアプリケーションを開発でき、現場担当者が業務内容に応じて自ら継続的にDXを進めることができる。また開発したアプリを組み合わせることで自動処理のサイクルを作

ることも可能で、それによりミスもなくなる。さらにはデータが自動的に蓄積されていくため、そのデータを組み合わせることで、簡単に様々な経営指標を計算させ確認することも可能になる。

3. 「にいがた2km」におけるDX人材の育成

- 将来のDX人材の育成に向け、当社は教育提供も行っている。市内にある専門学校でDXに関する特別講義を実施しているほか、今後実際にアプリの開発を体験してもらう連続講義も開講予定である。
- 理系に比べ付加価値の少ないと言われる文系の学生にとって、DXに強いということは大きなアドバンテージとなる。そういった学生が卒業して新潟市内で就職することによって、将来にいがた2kmのDX化に貢献してくれると考えており、当社としてその種まきができればと考えている。